



開館 50 周年記念

和歌山県立近代美術館 コレクションの 50 年

2020 年 9 月 19 日 (土) ~ 12 月 20 日 (日)

和歌山県立近代美術館は、1963 年和歌山城内に開館した和歌山県立美術館を前身として、1970 年和歌山県民文化会館 1 階に開館しました。「近代」を冠した国公立の美術館としては、日本で 5 番目の館となります。同会館で 23 年間の活動を続けたのち、1994 年に現在の場所へ新築移転し、今年開館 50 年を迎えました。それを記念して開催する本展は、和歌山県立美術館時代に収蔵した作品 83 点を引き継ぎ、その後半世紀にわたる活動のなかで、約 13000 点の作品を収蔵するまでになった当館のコレクションの歩みを、選りすぐりの作品を通してたどります。

当館のコレクションは、郷土の美術家を掘り起こすことから始まり、関西から日本、さらに世界へと目を広げるとともに、版画という専門分野の開拓から世界的なコンクールとなった和歌山版画ビエンナーレ展の開催を含め、地域を基礎とする活動を継続するなかで形づくられました。多くの人に支えられながら築かれたコレクションの豊かさを、改めてご覧いただきたいと思います。

そして会期後半からは「美術館を展示する 和歌山県立近代美術館のサステナビリティ」を開催し、作品収集にとどまらない美術館活動を振り返ります。展覧会、教育普及など、幅広くもそれぞれが関連した多面的な美術館活動と、それらを支える地域とのつながりにも目を向け、これからの 50 年、さらに 100 年を見据えた美術館を考えるための機会といたします。(後日、プレスリリース致します。)

開催概要

会場	和歌山県立近代美術館 1 階展示室
会期	2020 年 9 月 19 日 (土) ~ 12 月 20 日 (日)
主催	和歌山県立近代美術館
開館時間	9 時 30 分 ~ 17 時 (入場は 16 時 30 分まで)
休館日	月曜日 (9 月 21 日、11 月 23 日は開館)、9 月 23 日 (水)、11 月 24 日 (火)
観覧料	一般 520 (410) 円、大学生 300 (260) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金 * 高校生以下、65 歳以上の方、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料 * 毎月第 4 土曜日 (9 月 26 日、10 月 24 日、11 月 28 日) は「紀陽文化財団の日」として大学生無料 * 11 月 22 日は「ふるさと誕生日」として無料

掲載用画像については、広報担当にお問合せ下さい。

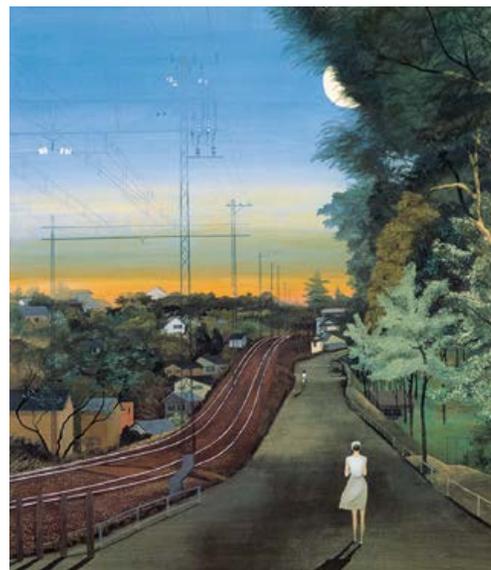
文字のせ、トリミング等にご遠慮ください。

※ 関連イベントについて

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を見ながら実施の可否を検討します。詳細は当館ウェブサイトなどをご覧ください。



1. 村井正誠《URBAIN No.1》1936 油彩、キャンバス



2. 稗田一穂《帰りの路》1981 顔料、紙

序章 1963-1970 和歌山県立美術館

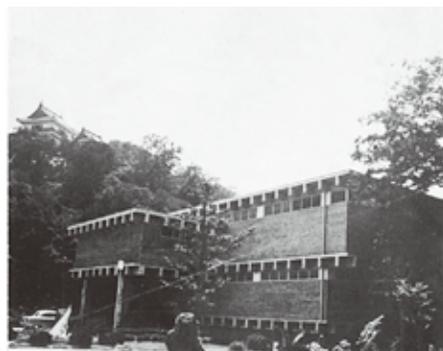
はじめに和歌山県立美術館時代の活動を紹介します。1963年3月、和歌山城二の丸跡に同館が開館すると、和歌山ゆかりの美術家たちの活動を紹介します。顕彰するという今につながる活動が始まりました。川口軌外、石垣栄太郎、保田龍門らの展覧会が開催され、それを契機に作品が収集されます。また自発的な作品の収集活動も始まり、浜口陽三の作品などが購入されました。1970年4月までの活動期間中83点の作品が収集され、その中には当館の主要なコレクションである川口軌外の《少女と貝殻》も含まれています。



4. 川口軌外《少女と貝殻》1934 油彩、キャンバス



5. 石垣栄太郎《街》1925 油彩、キャンバス



3. 和歌山城内に建てられた、和歌山県立美術館外観。近代美術館設立後は、和歌山県立博物館となった。



6. 浜口陽三《赤い鉢と黒いさくらんぼ》1968 カラーメゾチント、紙

1章 1970-1993 和歌山県立近代美術館

1970年11月の開館から、現在の建物に移転するまでの活動を振り返ります。まずは和歌山ゆかりの美術家の仕事を継続して紹介するなかで、その作品が数多く集められました。さらに取り扱う地域を関西にまで広げることで、新しい傾向を見せる戦後から現代の作品の収集も進みます。また浜口陽三や田中恭吉など、ゆかりの美術家に版画家が多いことから、版画というジャンルにも力が注がれました。それは和歌山版画ビエンナーレ展という国際コンクールの開催にもつながります。



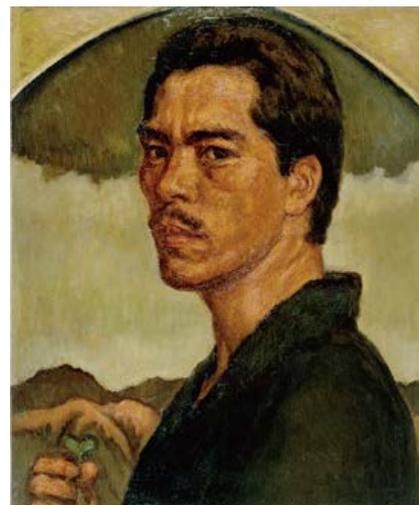
8. 野長瀬晩花《鳥の女》1916頃 顔料、絹



9. 建島大夢《感に打たれた女》1932 ブロンズ



10. 田中恭吉《[死の支配者の微笑]》1914 木版、紙



11. 保田龍門《自画像》1915 油彩、キャンバス



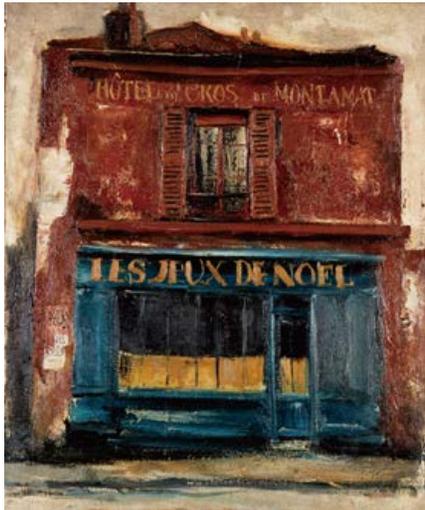
7. 当初、近代美術館は、県民文化会館の1階に開館した。耐震工事を終えた現在は、市民も利用出来る貸展示スペースとして活用されている。

2章 1994-2020 和歌山県立近代美術館（新館）

1994年7月、新築され開館した現在の美術館での活動です。展示と保存のための環境を整えたミュージアムとしての建物では、それまでの活動を引き継ぎつつ、海外の美術など新たな視点も加えた活動を展開しています。地域に根ざした地道な調査研究に基づく展覧会を継続して開催することで、作品の収集も進みました。コレクションはより幅広く、また深まりを見せ、それは常時開催するコレクション展の充実にもつながっています。



12. 現在の和歌山県立近代美術館は黒川紀章による設計。和歌山城天守閣や和歌山県の地勢をモチーフに周辺環境との共生を目指して建てられた。



13. 佐伯祐三《レ・ジユ・ド・ノエル》1925
油彩、キャンバス



14. 泉茂《Painting (DF1005)》1965
油彩、キャンバス



16. 小柳裕《Shrine (Source of Light 14-7)》2014
油彩、アクリル、キャンバス、パネル



15. 建畠寛造《核》1956 セメント、鉄

関連展示 * 再度プレスリリースとしてご案内します

Exhibiting the Museum:
Sustainability of MOMAW

美術館を展示する

和歌山県立近代美術館の
サステナビリティ

2020年

12月1日[火]—12月20日[日]



展覧会、教育普及など、作品収集にとどまらない幅広い美術館活動を紹介します。地域とのつながりにも目を向け、これからの50年、100年を見据えるための機会です。

【同時期開催】

開館 50 周年記念

もうひとつの日本美術史

—近現代版画の名作展 2020

【会期】9月19日(土)～11月23日(月・祝)

【会場】2階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：宮本久宣、奥村一郎、青木加苗

広報担当：和佐

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 (代表) FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>